

Palette

2010.2
Vol.119

総務省九州総合通信局広報誌「パレット」

 **総務省**
Ministry of Internal Affairs and Communications

地上デジタル放送への円滑な移行のための環境整備・支援 ～平成22年度予算所要額の内容～

- 2011年7月24日の地上デジタル放送への完全移行に向けて、残された期間で国民に円滑にデジタル放送に移行していただく観点から、必要な環境整備・支援策を実施
- 平成22年度所要額（事業費）は約870億円を予定（注1）

（注1）すべて電波利用料財源。一部を除き、国庫債務負担行為により複数年度にかけて歳出化（平成22年度予算額は約245億円）。

（注2）この他、アナログ周波数変更対策の経費として4.5億円を予定（アナログ周波数変更対策を含めた平成22年度予算額は約249.5億円）。

デジタル放送受信に関する相談体制の強化

- | | |
|---------------------------------|--------------|
| ① 地デジコールセンターの運営 | 【継続 18.4億円】 |
| ② 全都道府県のデジサポによる受信相談・現地調査等 | 【継続 110.6億円】 |
| ③ 高齢者・障がい者等を中心にきめ細かな説明会・戸別訪問の実施 | 【継続 74.6億円】 |

受信機器の購入支援

- ④ 経済的弱者に対するチューナーの購入等の支援
【継続 337.5億円】

電波が届かない過疎、離島地域などでの支援

- ⑤ デジタル中継局の整備に対する支援
【拡充 43.4億円】
- ⑥ 新たな難視対策
【新規 18.2億円】
- ⑦ 暫定的な衛星利用による難視聴対策
【継続 87.0億円】
- ⑧ デジタル混信の解消
【継続 10.8億円】
- ⑨ アナログ停波後のチャンネル切替
【拡充 8.1億円】

電波が届かない場合の共同アンテナ等に対する支援

- | | |
|----------------------------|-------------|
| ⑩ 辺地共聴施設のデジタル化の支援 | 【拡充 60.4億円】 |
| ⑪ 受信障害対策共聴施設のデジタル化の支援 | 【拡充 57.1億円】 |
| ⑫ 集合住宅共聴施設のデジタル化の支援 | 【新規 19.2億円】 |
| ⑬ デジアナ変換の導入による円滑な受信環境整備の推進 | 【新規 18.8億円】 |

その他（地方局経費・各種調査等）

【継続 1.9億円】

なぜデジタル化するのか、どうすれば良いのか丁寧に説明



デジタル放送をご覧いただけるようにするための負担の軽減



地上デジタル放送への円滑な移行のための環境整備・支援



市町村防災行政無線のデジタル化普及、促進のための公開実験



【開会式の様子】

九州総合通信局は、（社）九州テレコム振興センターとの共催により、1月25日、熊本県宇城市において、「市町村防災行政無線のデジタル化普及・促進のための公開実験」を開催しました。

九州地方は、地理的条件等から台風などによる自然災害が多く、これまでも尊い人命や貴重な財産が失われています。このような災害発生時等においては、自治体等から住民への迅速かつ正確な情報伝達が重要であり、市町村防災行政無線の整備は極めて重要です。

本公開実験は、最新のデジタル防災行政無線の特徴とメリット等を紹介し、今後、各自治体で市町村防災行政無線を整備する際の参考にしていただくために開催したものです。

実験に先立ち開会式が行われ、主催者を代表して九州総合通信局の加藤無線通信部長が「当地域は、過去に災害で大きな被害を受けたことがあり、この地で今回の実験を行うことは大きな意義がある。今後には是非役立てていただきたい。」とあいさつしました。また、協賛としてフィールドを提供している宇城市役所の佐藤総務部長があいさつを行い、その後、公開実験を開始しました。

まず、NEC日本電気（株）が、260MHz帯デジタル移動通信システムについて、一斉通信やグループ通信、さらに画像データの伝送など当システムの特徴や活用事例などについて紹介しました。続いて、（財）移動無線センターが、MCAを活用した市町村デジタル防災無線について紹介するとともに、MCA無線と地域コミュニティ用無線を接続した同報系戸別受信システムについても実際に操作等を行いながら紹介しました。当公開実験には、自治体の担当者や防災無線メーカーの方など105名が参加し、無線機等を実際に手にとって操作してみるなど、大盛況のうちに終了しました。



【公開実験の様子】



【無線機を手にとって確認する参加者】

【お問合せ先】無線通信部 陸上課 TEL096-326-7857

「九州地域情報化研究会 in 九重」を開催

九州総合通信局は、1月21日から22日にかけて、九州情報通信連携推進協議会（KIAI）及び（社）九州テレコム振興センターとの共催で、大分県九重町において「九州地域情報化研究会 in 九重～情報通信を活用した『いなかづくり』に向けて～」を開催しました。

まず、研究会の第一部では、国際大学グローバルコミュニケーション・センター（GLOCOM）講師の庄司昌彦氏による「地域情報化と地域おこし～『人のつながり』から考える～」と題した基調講演の後、高速大容量回線を利用した九重町と北海道岩見沢市の小学校間遠隔交流授業が行われました。その後、九州工業大学大学院教授の尾家祐二氏をコーディネーターとして、「いなかになが合う情報通信利活用術について」をテーマとしたタウンミーティング（意見交換会）が行われ、宮崎公立大学教授の辻利則氏他3名のアドバイザーから地域における情報通信利活用事例の紹介と意見交換がなされるとともに参加者100名を超える会場からは九重町民による利活用に向けた積極的な発言が相次ぎ、熱心な討論が繰り広げられました。

会場を移しての第二部では、大分県商工労働部情報政策課長の山戸康弘氏をコーディネーターとして、「地域情報化、何から取り組んでいけば良い！」をテーマにした夜なべ談義が行われ、町長をはじめとして参加者から多くの発言があり、町全体で利活用に取り組む強い姿勢が感じられました。



【坂本九重町長】



【尾家会長】

第三部として九重町における地域振興事例紹介および施設訪問が行われました。

2日間を通して、いなかにおける情報通信の利活用の在り方・方策などを考える良い機会となりました。

【タウンミーティングのアドバイザーの方々】



【遠隔交流授業】



【お問合せ先】情報通信部 情報通信連携推進課 TEL096-368-7314

地域情報化セミナー in KUMAMOTO

九州総合通信局は、1月20日、九州経済産業局及び（社）九州テレコム振興センターとの共催で、「地域情報化セミナー in KUMAMOTO」を開催しました。

このセミナーは、最近のインターネットの急激な普及を背景に、社会・経済活動の各分野におけるデジタル化、ネットワーク化が急速に発展している中で、住民視点から地域情報化を推進し、ひいては地域経済産業の活性化を図ることを目的として開催したもので、会場となった熊本市のKKRホテル熊本には、自治体関係やICT関係企業など、約100名の参加がありました。

セミナーは、まず主催者を代表して、九州総合通信局の中村情報通信部長が開会あいさつを行い、その後、基調講演として（財）化学及血清療法研究所経理部電算室長の塩津弘久氏が「化血研におけるIT活用による事例紹介」と題した発表を行いました。続いて、福岡市総務企画局情報化・行政改革部情報化・行政改革係長の福山武氏が「デジタルサイネージ福岡実験について」と題してモデル事業を紹介。さらに、熊本ソフトウェア（株）ソフトウェアコンテンツグループ課長の皇子高範氏が



【地域情報化セミナーの様子】



【お問合せ先】情報通信部 情報通信振興課 TEL096-326-7825

「九州地域における中小ITベンダーの相互支援体制によるユーザのIT経営強化モデル構築の取り組み」と題して講演を行いました。

本セミナーに参加した自治体関係者を中心とした聴講者は、それぞれの講演に興味深く聞いていました。

「電気通信サービスモニター会議」を開催

九州総合通信局は、1月26日、8名の電気通信サービスモニターの方に出席いただき、平成21年度の「電気通信サービスモニター会議」を大分市の大分県立ichiko総合文化センターにおいて開催しました。

モニター会議では、まず総務省から電気通信サービスにおける現状やe-ネットキャラバン継続実施の取り組み等の説明を行い、その後、電気通信サービスモニターとの意見交換を行いました。

電気通信サービスモニターの方からは、インターネットや携帯電話を利用する上でのモラル教育の重要性や電気通信事業者の営業活動の適正化等について、多くの意見や要望が出されました。

今回の電気通信サービスモニター会議で出された意見や要望については、誰もが電気通信サービスを安心して利用できるよう、今後の情報通信行政に反映していくこととしています。



【モニター会議の様子】

【お問合せ先】情報通信部 電気通信事業課 TEL096-326-7821

コミュニティFM「エフエムうけん」開局

本年1月4日、鹿児島県奄美大島の宇検村にコミュニティFM放送局「エフエムうけん」（周波数76・3メガヘルツ）が開局しました。



【開局式でのテープカット】

この放送局は、特定非営利活動法人エフエムうけん〔理事長：屋宮 喜治（おくみや よしはる）〕が運営し、宇検村在住の農業者や会社員など会員15人が番組制作を行い、アナウンサー役も務めます。放送は24時間で、朝昼晩の自主番組では島唄などの歌自慢や地域行事の紹介、さらに防災情報の提供などを行います。

開局当日は、セレモニーのあと、2時間の開局特別番組を放送し、村長や成人式を終えたばかりの新成人など村民を交えての対談や地元ミュージシャンのライブなどが放送されました。

「エフエムうけん」では、このように村民が1年に1回は出演する番組作りを目指しており、バックアップをする村も「村民総参加型のラジオ局。住民の意識が変われば地域おこしもつながる。」と期待を寄せています。



【スタジオでの放送の様子】

【お問合せ先】放送部 放送課 TEL096-326-7871